

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅢ (4単位)	3. 科目番号	SPMP3157
2. 授業担当教員	三田 真外		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅢは、ソーシャルワークⅠ・ソーシャルワークⅡで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理、ソーシャルワークプロセスと付随する専門技術等を前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、多様な課題と支援の必要性を持つ現代社会のクライアントに、より専門的に対応、その課題等の解消と軽減に向け働きかけることのできる知識・技術としての実践理論・アプローチについて学習する。加えて、グループを用いた支援、あらゆる場面で必要とされるコーディネーションとネットワーキング、関連する社会資源の調整と開発など、クライアントへの直接的・間接的相談援助技術について総合的・包括的に学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの定義と「相談援助」の対象について再確認する。</li> <li>2. ケースマネジメント (ケアマネジメント) についてその概要を理解する</li> <li>3. グループを活用した支援について理解する。</li> <li>4. コーディネーションとネットワーキング、社会資源の調整・開発について理解する。</li> <li>5. ソーシャルワーク実践モデルとアプローチの概要と実践方法について理解する。</li> <li>6. スーパービジョンについて理解する。</li> <li>7. ケースカンファレンスについて理解する。</li> <li>8. 実践事例を通じて、相談援助に必要な専門知識・技術について横断的に活用ができる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート 課題	<p>レポート課題 (1500字以上) と確認テストを数回実施する。 ※レポートの作成方法・構成等の詳細については授業にて説明する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅱ (新・社会福祉士養成講座 8)』第3版、中央法規、2015。</p>		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	<p>○成績評価の規準 ・8つの目標を達成することができたか。</p> <p>○評定の方法 (1) 平常点 (授業態度・発表・発言・学習課題など) 20%、 (2) 課題レポート 30% (3) 試験 50%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>この授業は、個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライアント・システムとしてとらえ、どのような対象者であろうと、一つのソーシャルワーク過程で基本的に対応できることを目的としています。本授業を通して、実習や演習につなげられるように学んで欲しいと思っています。</p> <p>①遅刻、欠席の無いようにすること。やむを得ず欠席する (した) 場合は書面で教員に届け出ること。 ②レポートの提出期限を遵守すること。提出期限後の提出は減点の対象となる。 ③私語や居眠り、学習テーマ以外の作業、携帯電話の使用、その他授業を妨げる行為を禁止する。違反者は受講態度で減点の対象となる。</p>		
13. オフィスアワー	初回の講義で発表する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション シラバス、講義概要、試験・レポート課題についての説明	事前学習	シラバスを持参する。事前に講義概要、シラバスについて目を通しておく。
		事後学習	ソーシャルワークⅢのねらいについて講義用ノートにまとめる。
第2回	相談援助における対象の理解 (1) 社会福祉援助活動の概念と定義	事前学習	教科書 pp. 2～7 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワークの定義について、講義の要点をノートにまとめる。
第3回	相談援助における対象の理解 (2) 相談援助の対象をどうとらえるか	事前学習	教科書 pp. 8～20 を読んでくること。
		事後学習	システム理論について、講義の要点をノートにまとめる。
第4回	相談援助における対象の理解 (3) 人間社会と組織・地域生活とコミュニティ・新しい専門的視点の必要性	事前学習	教科書 pp. 21～25 を読んでくること。
		事後学習	人間社会と組織・地域生活とコミュニティ・新しい専門的視点の必要性について、講義の要点をノートにまとめる。
第5回	ケースマネジメント (1) ケースマネジメントの意義	事前学習	教科書 pp. 28～38 を読んでくること。
		事後学習	ケースマネジメントの意義について、講義の要点をノートにまとめる。

第6回	ケースマネジメント(2) ケースマネジメントの特徴	事前学習	教科書 pp. 39～58 を読んでくること。
		事後学習	ケースマネジメントの特徴とし、特にアセスメントについて、講義の要点をノートにまとめる。
第7回	グループを活用した相談援助(1) グループワークの意義	事前学習	教科書 pp. 60～66 を読んでくること。
		事後学習	グループ・ダイナミクスについて、講義の要点をノートにまとめる。
第8回	グループを活用した相談援助(2) グループワークの援助過程	事前学習	教科書 pp. 66～71 を読んでくること。
		事後学習	グループワークの意義、展開過程について、講義の要点をノートにまとめる。
第9回	グループを活用した相談援助(3) 自助グループワークの活用	事前学習	教科書 pp. 72～80 を読んでくること。
		事後学習	自助グループの概要と活用について、講義の要点をノートにまとめる。
第10回	中間まとめ1 確認テスト・グループディスカッション	事前学習	第1回から第9回までの講義要点の再確認をしておくこと。
		事後学習	ここまでの講義内容を整理し、理解を深めること。
第11回	コーディネーションとネットワーク(1) コーディネーションの意義と目的	事前学習	教科書 pp. 82～85 を読んでくること。
		事後学習	コーディネーションについて、講義の要点をノートにまとめる。
第12回	コーディネーションとネットワーク(2) コーディネーションの方法	事前学習	教科書 pp. 86～91 を読んでくること。
		事後学習	専門職と地域住民との連携について、講義の要点をノートにまとめる。
第13回	コーディネーションとネットワーク(3) ネットワークの意義と目的	事前学習	教科書 pp. 92～98 を読んでくること。
		事後学習	ネットワークについて、講義の要点をノートにまとめる。
第14回	コーディネーションとネットワーク(4) ネットワークの方法	事前学習	教科書 pp. 99～104 を読んでくること。
		事後学習	地域ケアシステムについて、講義の要点をノートにまとめる。
第15回	相談援助における社会資源の活用・調整・開発(1) 意義・目的・方法	事前学習	教科書 pp. 106～121 を読んでくること。
		事後学習	社会資源の種類と、その特徴について、講義の要点をノートにまとめる。
第16回	相談援助における社会資源の活用・調整・開発(2) ソーシャルアクションとシステムづくり	事前学習	教科書 pp. 122～126 を読んでくること。
		事後学習	社会資源の開発について、講義の要点をノートにまとめる。
第17回	さまざまな実践モデルとアプローチ(1) 実践モデルの意義、治療モデル、生活モデル・ストレングスマデル	事前学習	教科書 pp. 128～148 を読んでくること。
		事後学習	治療モデル・生活モデル・ストレングスマデルの違いについて、講義の要点をノートにまとめる。
第18回	さまざまな実践モデルとアプローチ(2) 心理社会的アプローチ・機能的アプローチ	事前学習	教科書 pp. 150～155 を読んでくること。
		事後学習	心理社会的・機能的アプローチについて、講義の要点をノートにまとめる。
第19回	さまざまな実践モデルとアプローチ(3) 問題解決アプローチ・課題中心アプローチ	事前学習	教科書 pp. 156～161 を読んでくること。
		事後学習	問題解決・課題中心アプローチについて、講義の要点をノートにまとめる。
第20回	さまざまな実践モデルとアプローチ(4) 危機介入アプローチ・行動変容アプローチ	事前学習	教科書 pp. 162～171 を読んでくること。
		事後学習	危機介入アプローチ・行動変容アプローチについて、講義の要点をノートにまとめる。
第21回	さまざまな実践モデルとアプローチ(5) エンパワメントアプローチ	事前学習	教科書 pp. 174～177 を読んでくること。
		事後学習	エンパワメントアプローチについて、講義の要点をノートにまとめる。
第22回	さまざまな実践モデルとアプローチ(6) ナラティブアプローチ・認知アプローチ	事前学習	教科書 pp. 178～185 を読んでくること。
		事後学習	ナラティブアプローチ・認知アプローチについて、講義の要点をノートにまとめる。
第23回	さまざまな実践モデルとアプローチ(7) その他の実践アプローチ	事前学習	教科書 pp. 186～197 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワークの実践アプローチについて、講義の要点をノートにまとめる。
第24回	中間まとめ2 確認テスト・グループディスカッション	事前学習	第11回から第23回までの講義要点の再確認をしておくこと。
		事後学習	ここまでの講義内容を整理し、理解を深めること。
第25回	スーパービジョンとコンサルテーションの技術(1) スーパービジョンの目的と意義	事前学習	教科書 pp. 200～205 を読んでくること。
		事後学習	スーパービジョンの意義と定義について、講義の要点をノートにまとめる。
第26回	スーパービジョンとコンサルテーションの技術(2) コンサルテーションの目的と意義	事前学習	教科書 pp. 206～213 を読んでくること。
		事後学習	スーパービジョンとコンサルテーションの違いについて、講義の要点をノートにまとめる。

第27回	ケースカンファレンスの技術と実際	事前学習	教科書 pp. 216～239 を読んでくること。
		事後学習	事例研究の目的と意義について、講義の要点をノートにまとめる。
第28回	相談援助における個人情報の保護、情報通信の活用	事前学習	教科書 pp. 242～265 を読んでくること。
		事後学習	個人情報保護法について、講義の要点をノートにまとめる。
第29回	事例研究の目的と意義	事前学習	教科書 pp. 268～291 を読んでくること。
		事後学習	事例研究の目的と意義について、講義の要点をノートにまとめる。
第30回	まとめ	事前学習	教科書やこれまでの講義要点の再確認をしておくこと。
		事後学習	これまでの講義内容を整理し、理解を深めること。
期末試験			